

一人の健康から地球の未来まで

赤塚植物園の

# グリーン通信

Green Communication

〇〇〇

vol.279

(2024.04発行)



## アジサイ (Hydrangea)

日本原産のアジサイは、ヨーロッパに渡って品種改良をされ世界中で栽培されています。アジサイが人気を集める理由としては、花色、花形のバリエーションや開花期間の長さがあげられます。ゴールデンウィークや母の日をピークに沢山の品種が販売されます。

### アジサイの種類

- **ガクアジサイ** 葉に光沢があり、大型タイプが多い(ダンスパーティーなど)
- **手まり咲きガクアジサイ** 手まり型に咲くガクアジサイ(万華鏡など)
- **ヤマアジサイ** 北海道から九州までの山地に自生する(紅、黒姫など)
- **アメリカアジサイ** 北米原産で大型タイプが多い(アナベルなど)
- **カシワバアジサイ** 北米原産で葉がカシワの形をしている(スノークイーンなど)

### 土質(pH)による 花色の変化

土質が酸性では青、アルカリ性では赤というように、土壌酸度によって花色が変化します。白花は変化しないのが一般的です。近年ではpHに左右されない品種の育種が進んでいます。

## おすすめ品種 「ラグランジア®シリーズ」

常識を覆す新ジャンルのアジサイ! 枝の先端にだけ咲く従来のアジサイとは異なり枝につく「側芽」からも花が咲き、株いっぱいになれるように豪華に咲きます。剪定位置を細かく気にしなくても、翌年にはたくさんの花芽をつけます。

それどころか、剪定をしなくてもナチュラルな草姿を楽しめる画期的なアジサイとして注目を集めています。



ブライダルシャワー

純白の花々が祝福のシャワーのように咲きあふれます。



クリスタルヴェール2

ブルー、パープル、ピンクが混ざり合い美しいグラデーションを魅せます。



シャンデリーニ

手まり咲きのライムグリーンの花が何段にも連なって咲き誇ります。



## アジサイの管理方法

### 植え付け

●鉢植えの場合…購入したアジサイを水切れさせないように、二回りほど大きな鉢に根鉢を崩さず植え替えます。

植え替え後は花が終わるまで室内の明るいところで管理します。花が終わったら屋外の日陰で葉焼けをさせないように慣らしていきましょう。

●庭植えの場合…室内の明るいところで管理し、花が終わって切り戻し後に根鉢を少し崩してから庭植えします。

### 花をたくさん咲かせるポイント

#### ①植え付け場所は日当たりよく！

日陰を好むイメージがありますが、基本的には日当たりを好みます。

#### ②寒風に注意！

丈夫で育てやすい植物ですが、冬場の寒風に当たると、枝先が枯れることがあります。冬場に寒風が強く当たる所に植える場合は寒冷紗などで囲い寒風対策をしましょう。

#### ③剪定時期を間違えない！

落葉後の枯れた枝を剪定してしまうと、花芽を落としてしまうことになります。

### 切り戻し

7月中下旬までに、終わった花の下の2節目か、脇芽のある節の上で切れば、伸びだした枝の先に翌年の花芽が付きます。切る時期が遅れると伸びた枝が充実しないため花芽が出来ず翌年に花が咲きません。

長年育てた大きく茂り過ぎた大株の場合は、「バツサリ切る」。すべての枝を下から2〜3節残して切ります。ただし、翌年は花が咲きません。花が咲くのは再来年以降からです。

アメリカアジサイは伸びだしてから花芽が出来るため、休眠期の12月〜翌春3月までなら、いつ切ってもかまいません。切る位置は、株元から5cmくらいです。

### 花色を綺麗に出すポイント

アジサイは酸性の土では青く、アルカリ性の土では赤くなるといわれています。

同じ品種でも土壌の酸度により青系や赤系の花を咲かせるものもあります。

庭植えの場合、同じ場所で青系と赤系のどちらも綺麗に咲かせることは難しく、どちらか一方に色が傾きます。2色とも綺麗に花色を出すためには鉢植えがおすすめです。

白色の花やアメリカアジサイのアナベルは土壌の酸度に左右されない品種もあります。

肥料や用土も、赤系専用、青系専用が販売されています。

